

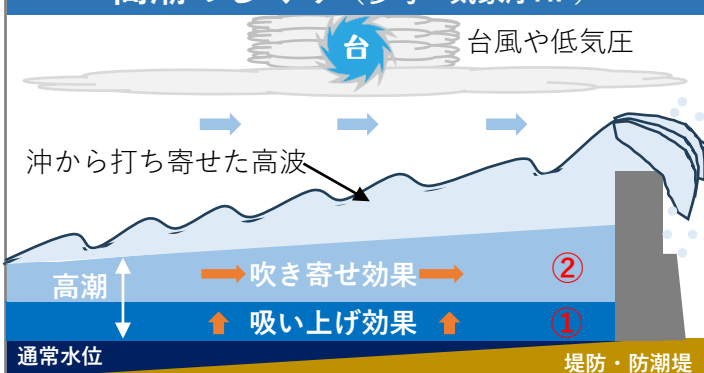


台風が来る前に

適切な準備を!

⚠ 台風等による小型船舶への浸水・転覆に注意しましょう ⚠

高潮のしくみ (参考: 気象庁HP)



高潮は、台風や発達した低気圧の接近に伴い、

- ① 気圧低下による吸い上げ効果
- ② 風による吹き寄せ効果

によって発生します。

高潮に満潮時刻や高波が加わると、海水が防波堤を一気に越える等の危険性が高まります。

荒天時の係留船舶の事故を防止するためのポイント

① 安全な港への避難又は船舶の陸揚げ・固縛

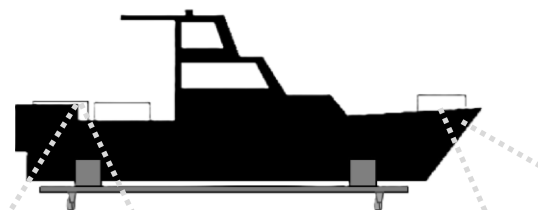


- ・風浪の影響を受けにくい岸壁等に係留しましょう。
定係港での対策が難しい場合は、静穏度の高い港へ避難しましょう。
- ・陸揚げした際は、暴風による転倒等を避けるため、ロープでしっかり固定する等の対策を取りましょう。

ライフジャケット等安全装備
を着用し、
荒天前の穏やかな気象の時に
実施しよう!



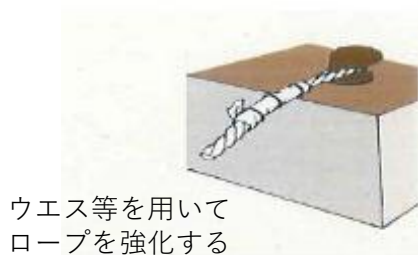
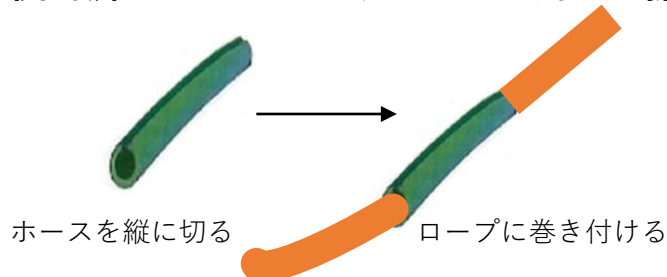
陸揚げ後の固縛もしっかりと!



2 係留の強化

- ・係留索の摩耗・損傷状況を点検し、擦れあてを適切な位置に設置しましょう。

係留索が岸壁の角や船べりで擦れて、切断してしまうのを避けるため、使用済みゴムホースやウエスを用いて擦れる部分を強化しましょう。



- ・索の本数を増やす等の係留強化を行いましょう。
- ・増し索を設置する場合は、本索の長さと合わせましょう。

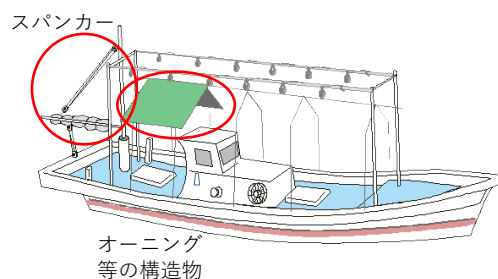


3 防舷物設置・開口部閉鎖

- ・防舷物を適切に設置しましょう。
- ・開口部の閉鎖、排水口の清掃を行いましょう。

4 スパンカー・オーニング

- ・スパンカーやオーニングはロープで固縛するか、船から外して収納しておきましょう。



5 潮汐等の変化を考慮しましょう

- ・気圧が低くなると、高潮が発生し海面が上昇することがあります。係留索の長さが足りないと船体が傾斜するなどして転覆・浸水することがあるため、高潮や潮汐の影響を考慮して係留しましょう。

